

第 19 回目（1994 年 2 月 26 日放送）

【いろはがるた】

「無理が通れば通り引込む」: If you pass incoherent things upon a person, the truth of the matter disappears.

【話の内容】

日本では 3 月に桜が咲くが、ハワイ島では 2 月に桜が咲く。種類は台湾桜である。ハワイの方が日本より一歩早い。ハワイ島は雨がよく降るので、花もよく咲く。ハワイは勉強するのもいい。純真学園の生徒もハワイ島に定期的に来ている。なぜハワイが日本の学生に人気なのか。晴耕雨読という言葉に表せられるように、コナは晴れが多く農地を耕せるが、ヒロは雨読、雨がよく降るので勉強にいい。

1900 年の新聞に「郎という字と刺客さしこさしこ」という記事を紹介する。岩倉具視を刺したのは大田一郎、森有礼を刺したのは西野文太郎、大久保利通を刺したのは島田一郎¹、星亨を刺したのは伊庭想太郎。「郎」という字がついた人が、歴代の日本の大政治家を殺してきた。

昨年、12 月 25 日朝にラジオを聴いていたら、親鸞聖人の話をしている番組（「光に向かって」、親鸞会がスポンサー）があった。それに関連して移民資料館に大切にしているレコードがあるのでぜひ紹介したい。1904 年、明治 37 年セントルイス世界万博博覧会において、白骨の御文章のレコードが最高賞を受賞した。この古い貴重なレコードがあるため、ラジオ放送で親鸞聖人の話をしていた女性にぜひ渡したい。

ホノルルに来るたびにコナ出身の人たちを思い出す。1928 年、林三郎医師、丸本玉次郎、森田丑馬らコナの三大関と呼ばれる人々がいた。当時、大久保は、コナで亡くなった齋藤実総理大臣の弟齋藤ショウゴという人物を調べるためにハワイ島へ渡り、ケアラケクア学園で教えながら生活していた。その間、ダクタ²林が作った「コナ反響」を手伝っていた。そのおかげで当時の「コナ反響」の記事を持っている。息子は林千里医師である。丸本玉次郎はキャプテンクックに商店と劇場を営業していた。息子は、判事の丸本正次。森田丑馬さんは日本人学校で先生をした後、コーヒーミルの支配人になった。息子はシティバンクの会長ジミー森田。親の奮闘は子供に影響するという例である。

昔のことを考えるためにヒロからレコードを持ってきて放送している。この中で、ハワイ島パパロア耕地で生まれた二世歌手古川千代美のレコードも持ってくるが、なぜ

¹ 大久保は岩倉具視が大田一郎に刺殺されたと話しているが、咽頭がんのために死去している。

² Doctor の意。

あんなに日本語がうまかったのか不思議に思う。1939年6月27日のハワイ毎日新聞のお礼広告で、公園劇場でののどじまんで一等を取り、賞品として日本への航空券をもらったことがわかる。アアラの公園劇場はもうないが、当時を思い出すにはいい歌手である。

【曲】

「椿咲く島」(歌: 古川千代美)

【サブジェクトタグ】

コミュニティ 有力者 コナ反響 ハワイ毎日新聞